

いざという ときのために 11月9日は119番の日

緊急時に混乱することなく速やかな通報を行うため、何を伝えるべきか確認しておきましょう。

通報の流れ

①何が起きたのか

「火事です」「救急です」



②場所はどこか

- 住所を正確に伝える
「〇町〇丁目〇番地です」
- 住所が分からないときは、近くの目印になるものを探す「〇〇交差点北です」

③状況はどうか

具体的にはっきりと伝える
「〇階〇号室が燃えています」「車と車の事故です」
「子どもが胸が苦しいと言っています」

④さらに詳しい内容を伝える

火災通報 / 何が燃えているか(家・車両・枯れ草など)、逃げ遅れやけが人がいるかなど
救急通報(事故など) / 傷病者の数・容態、事故の状況など
救急通報(急病など) / どこが痛いか、意識・呼吸はあるかなど

救急通報の場合、場所が分かった時点(②の時点)で救急車は出動します

指令員が通話を切らずに、傷病者の容態を詳しく確認したり、応急処置を指示したりすることがあります。これは出動中の救急隊に詳しい情報を伝えることや、他に緊急車両が必要かを判断するためです。できるだけ傷病者の近くで通報し、落ち着いて指令員の指示に従ってください。

救急車のサイレンは消せません

救急車などの緊急車両が出動する際は、一刻も早く現場に到着するため、サイレンを鳴らし、赤色灯を点灯することが法律で定められています。サイレンを鳴らすことは安全確保のためにも必要不可欠です。ご理解・ご協力をお願いします。



問い合わせ先 / 瀬戸・尾張旭消防指令センター ☎85-1119

冬のお風呂に要注意！ ヒートショックに注意しましょう

急激な温度変化によって血圧が大きく変動し、さまざまな健康被害を引き起こす「ヒートショック」。失神、脳梗塞、心筋梗塞、不整脈などが引き起こされ、浴室で起こると転倒の危険や湯船で溺れるなど、命に関わる場合もあります。



ヒートショックを防止する3つの対策

脱衣所やトイレなどを暖める

冷え込みやすい脱衣所や浴室、トイレを事前に暖めておく方法や、入浴前に温かいシャワーで浴室を暖める方法が効果的です。

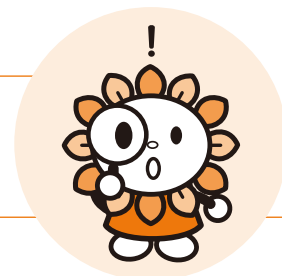
なお、暖房器具を使用して暖める場合は火災や換気に注意しましょう。

食事や飲酒の直後の入浴は控える

食事や飲酒後は、血圧が下がり、失神する可能性が高まります。また、体調がすぐれないときの入浴も思わぬ事故が起こる可能性がありますので避けましょう。

入浴前に家族に声を掛ける

体調の悪化など、入浴中に異変があった場合は、家族に早く気付いてもらうことが重要です。そのため、入浴前に家族に声を掛けてから入浴しましょう。



問い合わせ先 / 消防署救急係 ☎51-0885